

# 議員の日常活動

茨木市では、ピースア  
クシヨンの名で平和運動  
を進めている。昨年五月  
に「南京一九三七」、今  
年の一月に「ナヌムの家」  
を上映し、日本が加害者  
としてアジアに侵略して  
いった歴史を知ってもら  
う取り組みをしてきた。

この運動に全面的に協  
力してもらっているのが  
ピースあい（「茨木市安  
威地区に戦争と平和を学  
ぶ公園を」市民の会）の  
メンバーで、私もその一  
人として議会での発言や  
市との話し合いに参加し  
ている。

本市北部の安威・桑原  
地区には戦時中、日本海  
軍が本土決戦に備え、衣

料・食料を備蓄するため  
の地下トンネルが造ら  
れ、その建設にあつた  
のが強制連行された朝鮮  
人だった。当時、強制労  
働させられた生き証人の  
方から、ていねいな聞き  
取り調査も行なわれてい  
る。

私もトンネルに入った  
が、無理やり連れていか  
れた異国の地で、暗闇の  
中、穴を掘り続けた朝鮮  
の人たちの気持ちはいか  
ばかりかと思わずにはい  
られなかった。

## 加害者の立場からの 平和運動

茨木市議会議員 山下けいき

このトンネルの総延長  
は約一キロメートルにも  
及び、大阪府内に残って  
いる戦争遺跡としては最  
大のものであり、強制連  
行、強制労働の歴史も合  
なるよう運動を続けてお  
られる。

今も崩れることなく保  
存状況が良好なことか  
ら、同会はこのトンネル  
を保存し、会の名称通り、  
戦争と平和を学ぶ教材に  
使うなどの成果も生ま  
れている。



ピースウォーク前の一言スピーチ

人々に大きな災禍と苦痛  
をもたらした」との表現  
に変更させることができ  
た。

私は議会で、市独自の  
文化財として指定し保存  
するよう求めてきたが、  
文化庁においても全国の  
自治体の協力を得て近代  
の軍事遺跡も含めた遺跡  
調査が進められている。  
会では市に対し、經由する  
府の教育委員会に積極的  
に資料を提供し、貴重な  
戦跡保存に前向きに取り  
組むよう要望している。

さらに会の活動の中  
で、茨木市が友好都市の  
提携をしているが中国安  
慶市が、日本の侵略拠点  
であった事実も明らかに  
なってきた。

この年末にピースあい  
の皆さんと中国安慶市を  
訪問し、詳しい調査をす  
る予定になっている。

また、大阪府の戦後五  
十周年事業の一環として  
府と茨木市共同の銘板も  
設置された。銘板の茨木  
市の原案記述をめぐつ  
て、日本が加害者・侵略  
者であったことから、会  
は粘り強く話し合いを重  
ね、「強制連行された朝  
鮮人が苛酷な労働に従事  
させられ」（我が国は）  
「アジア・太平洋地域の